

事業活動実績報告書

施 設 名	葛飾若草幼稚園
教 育 理 念	・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める

1 事業名	農作物収穫・自然遊び体験
2 実施期間	令和7年5月9日 ～ 令和7年10月21日

3	取組概要	（取組日） 令和7年5月9日 ～ 令和7年5月9日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年長組が田植え体験（5/9）をする。 ・稲の苗を子どもたちが自ら田んぼの中で植える体験をする。 ・田植え体験後、泥遊び（泥団子作り、泥滑り等）を体験し、楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
		（取組日） 令和7年5月9日 ～ 令和7年5月9日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 同 上	
		（取組日） 令和7年9月12日 ～ 令和7年9月12日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長組が5月に田植え体験で植えた苗が、大きく成長したことを喜びつつ、稲を刈る収穫作業体験を楽しむ。 ・有志の保護者数名と職員と一緒に鎌を使って実際に稲を刈り、収穫を喜ぶ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
		（取組日） 令和7年10月27日 ～ 令和7年10月27日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈り後、精米したお米を給食にて全園児に提供し、収穫に感謝し、お米を食べることを喜ぶ。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年 6 月 5 日 ～ 令和7 年6 月5 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年中組が玉ねぎとじゃがいもの収穫(6/5)を体験する。 ・収穫を体験後、プレハブ小屋や戸外で昼食を食べ、楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。	
		(取組日) 令和7年 6 月 5 日 ～ 令和7 年6 月5 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		同 上	
		(取組日) 令和7年6月24日 ～ 令和7年6月24日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		農園で収穫した玉ねぎとジャガイモを使って、カレーを手作りし、昼食時に全園児でいただく。玉ねぎの皮むきや、じゃがいもを水で洗い、包丁で切ることも経験する。	
		(取組日) 令和7年6月24日 ～ 令和7年6月24日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
同 上			
(取組日) 令和7年10月20日 ～ 令和7年10月21日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
埼玉県吉川市にある幼稚園の農園にて年少組が親子でさつま芋収穫(10/20,21)を体験する。 ・さつま芋がどのように土に埋もれているのか、葉っぱの色、形などにも興味を持つ。 ・収穫を体験後、親子でプレハブ小屋内で昼食を食べ、自然の中での食事を楽しむ。 ・昼食後、農園の周りを散策し、自然の植物に触れる。			
(取組日) 令和7年10月20日 ～ 令和7年10月21日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
同 上			

3	取組概要	(取組日) 令和7年10月28日 ～ 令和7年10月28日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 一日自由遊びの日(ニコニコday)のおやつ食材としてさつま芋を茹でたものを食し、収穫の喜びと美味しさを味わう。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 同 上	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの		

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		葛飾若草幼稚園				
教 育 理 念		・子ども一人ひとりの発達段階に即した保育を行う ・体験学習を通して豊かな心情や知的好奇心を高める				
事業の区分（5領域）		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）				
		健康 ◎	人間関係	環境 ◎	言葉	表現 ○
1 事業名		農作物収穫・自然遊び体験				
2 事業概要		農園での収穫体験・自然遊び体験				
3 対象学級（クラス名） 対象人数		3学年（年長組・年中組・年少組）				163 名
計 画 時	4 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況 ・年長組：5月（田植え体験）・9月（稲刈り体験） ・年中組：6月（玉ねぎ収穫）・年少組：10月（さつま芋収穫） ●田んぼ・農地の管理や農作物の世話（管理）をしてくれる人員（約3人） ●農作物の育て方、収穫の方法、収穫後の作物の仕分けや片付け方法を指導してくれる方 ●収穫の際の園児の引率・誘導、補佐、手伝いの人員増員（有志の保護者を募る） ●収穫予備日を設ける				
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 （効果） ・手伝いの人員を増員したことで、園児の補佐をしっかりとすることができた。 ・収穫予備日を設けたことにより、余裕をもって実施することができた。 （改善点） ・農作物は、天候・気温によって大きく左右されてしまう。収穫量が大きく変わることがあるため事前に現地に赴き、だいたいの量を把握してから実施日の変更をするかどうか決めると良い。				
計 画 時	5 事業のねらい	・農作物の収穫体験をすることで、土に触れたり、自然を体験し、食物を収穫する喜びや大切さを学ぶ。 ・収穫物を幼稚園にて調理し、食育に繋げている。				
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 （効果） ・幼稚園の農園での作物の収穫体験やその後の食育にも繋げることができた。その結果、食べ残しが減り、苦手な野菜類を食べられる子が増えた。 （改善点） ・農作物は、天候・気温によって大きく左右されてしまうため、農作物の高騰により、土壌改良に必要な肥料等の値上がりへの対応が必要。また、収穫量に応じて、園児に分配する量を調整する必要がある。				
計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等				
		・年長組：5月（田植え体験）・9月（稲刈り体験） ・年中組：6月（玉ねぎ収穫）・年少組：10月（親子でさつま芋収穫） （各学年、実施予備日を設ける） ●稲の収穫後、全園児に分配し、更に給食の際に給食室で炊いたお米を提供し、収穫の喜びやお米の美味しさを味わう。 ●玉ねぎやさつま芋は、収穫後全園児に分配し、収穫の喜びを分け合う。玉ねぎは、カレーパーティーで食材として使用し、全園児で食し、さつま芋は、自由保育時のおやつとして提供する。それぞれ食育や食べ物への感謝の気持ちを育むことに繋がる。 ●新しくなったプレハブ小屋を利用し、暑さ対策に備える。				
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点				
		環境の領域の「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ」というねらいに即し、「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」という「内容」について、本園では自然に触れて遊んだり、収穫や全身で自然を感じ取る体験を多く取り入れ、喜びや自然への感謝を感じることができるように取り組みを発展させた。				
		（継続事業のみ記入）前年度の取組から発展させた点				
		・年少組のさつま芋掘りに保護者も参加してもらい、共に収穫を喜べるようにする。 ・新しくなったプレハブ小屋を活用し、暑さ対策に備える。				

計画時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・年少組は、保護者が参加してくださったことで、園児補佐の人員削減になった。農園のプレハブ小屋がリニューアルしたことで、保護者も農園を訪れる機会ができ、農園の魅力を伝えたり、体験することができた。 ・プレハブ小屋が新しくなったことで、子どもたちはトイレや小屋の中でも快適に過ごすことができるようになった。 ・年少組は親と一緒に芋掘りをする事で、収穫の楽しさや面白さを共有することができ、喜んでいた。虫が苦手な子ども親がそばにいて泣き叫ぶことなく、安心して参加することができていた。 (改善点) ・保護者用のマイクロバスを予備日も含めてレンタカーの手配をしたが、レンタカーの費用が高騰しているため、対策を検討する必要がある。
	7 環境構成例	埼玉県吉川市にある自園の畑や田んぼにて実施 ・昼食や休憩をとるためのプレハブ小屋の設置 ・手洗い等で使用するための水道の設置 ・汚れた衣類等の洗濯のために洗濯機の設置 ・プレハブ小屋や畑周辺の掃除のための掃除道具類の設置 ・冬場に備えてお湯が使えるようにガス(給湯器)の設置 ・できるだけ自然の中での体験ができるように環境を整える (スズメバチやネズミ等の害虫駆除対策や周辺の安全管理)
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・プレハブ小屋が新しくなったことで、園児が快適に過ごせる設備・環境が整えられ、無理なく自然体験や収穫体験ができた。 (改善点) 昨年度の反省を踏まえて実施したため、改善点は特にありません。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・作物を収穫する楽しさを体験し、野菜に興味を抱くようになり、苦手意識が減少する。 ・田植えは、園児が手作業で苗を植え、手作業で稲刈り体験を行うことでお米や食に興味・関心を抱き、感謝の心・大事に食べようという心が育まれる。 ・自然の中で土や虫や草花に触れることで、感性や興味関心、探求心が育つ。 ・収穫する際に、子ども同士で協力・助け合い、連帯感を味わう。 ・収穫した作物を幼稚園や各家庭で皆で食し、収穫の喜びや味を味わう。 ・自然豊かな300坪近い広大な田んぼの泥土の中で、そりや滑り台を使った遊びや全身泥まみれになりながらの泥んこ遊びを楽しむことで日常保育では経験できない開放感や楽しさを存分に味わう。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) ・作物を収穫する経験をし、野菜が苦手だった園児も少しずつ食せるようになった。 ・自然の中で収穫や自然体験をすることで、解放感や楽しさを味わうことができた。 ・年少組は親子でお芋掘り体験ができたことで、安心して収穫する楽しさを味わうことができた。 (改善点) 昨年度の反省を踏まえて実施したため、改善点は特にありません。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・今年度も学年毎に収穫する作物が異なるが、収穫できたことを喜び、楽しむ姿が見られた。 ・プレハブ小屋が新しくなったことで、暑さ対策ができ、安心して農作業を経験できるようになった。今後も継続していく予定だが、肥料等の高騰により、作物の種類や量を減らして対応する等、検討が必要。 ・農園を手伝ってくださる方々の高齢化により、作付けの時期も異なるため、実施日程の調節が今後も必要になる。 ・人数や日程にもより、来年度も今年度の反省を生かして保護者も子どもと一緒に自由参加できるように調整していく。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。